

第9章 本試験対策（解答）

本試験対策としては、過去問を解くのが最善策です。ここでは、本試験を想定した問題を紹介していきます。

第1問対策 仕訳問題（20点）20分

問1 商品売買（20分）

次の各勘定科目群の中から最も適当と思われるものを選んで、下記取引の仕訳を行いなさい。

勘定科目群

現金	当座預金	受取手形	売掛金	未収金	受託買付
積送品	未着品	試用品	前払金	仮払金	委託販売
支払手形	買掛金	受託販売	前受金	未払金	仮受金
仕入	手形売却損	売上	未着品売上	積送品売上	受取手数料

1. 委託販売先である梅田商店へ商品（原価 180,000円、売価 300,000円）を積送した。その際、運送料 10,000円を小切手を振り出して支払った。

(借方) 積送品	190,000	(貸方) 仕入	180,000
		当座預金	10,000

2. 手許にあった貨物引換証 400,000円を奈良商店へ 600,000円で販売し、代金のうち 350,000円は京都商店振出し、奈良商店受取りの約束手形が裏書譲渡され、残額は掛けとした。なお、仕入勘定への振替えは取引の都度、行っている。

(借方) 受取手形	350,000	(貸方) 未着品売上	600,000
売掛金	250,000		
(借方) 仕入	400,000	(貸方) 未着品	400,000

3. 和歌山商店は、販売を委託された商品（売価 560,000円）を受け取るとともに、引取運賃 12,000円を現金で支払った。

(借方) 受託販売	12,000	(貸方) 現金	12,000
-----------	--------	---------	--------

4. 和歌山商店は、上記商品の半分と自己が仕入れた商品（売価 400,000円）を渋谷商店に掛け販売した。

(借方) 売掛金	680,000	(貸方) 受託販売	280,000
		売上	400,000

5. 山形商店は、運送会社から商品到着の連絡を受け、先に受け取っていた船荷証券 300,000円と引換えに商品を受け取った。なお、引取りに際して引取運賃 1,000円を現金で支払った。

(借方) 仕入	301,000	(貸方) 未着品	300,000
		現金	1,000

問2 商品売買 (20分)

次の各勘定科目群の中から最も適当と思われるものを選んで、下記取引の仕訳を行いなさい。

勘定科目群

現金	当座預金	受取手形	売掛金	未収金	受託買付
積送品	未着品	試用品	前払金	仮払金	委託販売
支払手形	買掛金	受託販売	前受金	未払金	仮受金
仕入	手形売却損	売上	未着品売上	積送品売上	受取手数料

1. 梅田商店から販売と代金回収を委託されていた商品 50個（販売価格 4,000円/個）のうち、30個を神戸商店に販売し、代金は神戸商店振出の小切手で受取り、直ちに当座預金に預け入れた。なお、当社は、販売価額の 20%を販売手数料として受け取るようになっており、販売の都度、収益を計上する。

(借方) 当座預金	120,000	(貸方) 受取手数料	24,000
		受託販売	96,000

2. 商品販売と代金回収の委託を受けている愛知商店が取り組んだ荷為替手形 200,000円を当社の取引銀行から呈示されたため、これを引受けて船荷証券（愛知商店の仕入原価 500,000円、当社での受託販売価額 800,000円）を受け取った。なお、商品は未着である。

(借方) 受託販売	200,000	(貸方) 支払手形	200,000
-----------	---------	-----------	---------

3. 渋谷商店より販売を委託されていた商品（売価 600,000円）と自社仕入商品（売価 400,000円）を目黒商店に販売し、代金は上野商店振出、目黒商店宛の約束手形の裏書譲渡を受けた。当社は委託された商品分の売上計算書を作成し、渋谷商店に発送した。なお、当社は渋谷商店から販売価額の 20%の手数料を受け取ることになっている。

(借方) 受取手形	1,000,000	(貸方) 受託販売	480,000
		売上	400,000
		受取手数料	120,000

4. 神田商店より買い付けを委託されていた商品を買付け、代金 300,000円を掛けとした。

(借方) 受託買付	300,000	(貸方) 買掛金	300,000
-----------	---------	----------	---------

5. 和歌山商店に商品の販売を委託するために、商品（原価 400,000円、売価 650,000円）を積送した。当社は、貨物引換証を担保として取引銀行において 300,000円の荷為替を取り組み、割引料 1,500円を差し引かれた手取金が当座預金に入金された。

(借方) 積送品	400,000	(貸方) 仕入	400,000
当座預金	298,500	前受金	300,000
手形売却損	1,500		

問3 商品売買 (35分)

次の各勘定科目群の中から最も適当と思われるものを選んで、下記取引の仕訳を行いなさい。

勘定科目群

現金	当座預金	受取手形	売掛金	未収金	受託買付
積送品	未着品	試用品	前払金	試用売掛金	委託販売
支払手形	買掛金	受託販売	前受金	未払金	未着品売上
仕入	手形売却損	売上	割賦売上	積送品売上	試用仮売上

1. 手許にあった貨物引換証 600,000円を奈良商店へ 900,000円で販売し、代金は当社を受取人とする自己受為替手形を振り出し、奈良商店の引受けを得た。なお、貨物引換証の販売については、販売の都度、売上原価を仕入勘定に振り替えることにしている。

(借方) 受取手形	900,000	(貸方) 未着品売上	900,000
(借方) 仕入	600,000	(貸方) 未着品	600,000

2. 商品の買付けを委託している横浜商店から次のような買付計算書と商品の送付を受けた。なお、買付け委託時に前払いした手付金は、前払金勘定で処理している。

買付計算書			
商品買付代金			750,000円
諸掛かり			
発送運賃	25,000円		
買付手数料	75,000円		100,000円
買付代金合計			850,000円
前受金			150,000円
差引請求額			700,000円

(借方) 仕入	850,000	(貸方) 前払金	150,000
		買掛金	700,000

3. 金沢商会は、福井商店に商品 300,000円を販売し、船便で発送した。金沢商会は取引銀行との間で80%の荷為替を取組み、236,000円を当座預金に預け入れた。

意味

金沢商会は、売上代金 300,000円の80%にあたる 240,000円について、福井商店を名宛人(支払人)とする為替手形を振り出し、これを銀行で割引いて 236,000円を当座預金に預入れ、残額の 60,000円は掛けとした。

(借方) 当座預金	236,000	(貸方) 売上	300,000
手形売却損	4,000		
売掛金	60,000		

4. 得意先である伊勢商店に商品A 100個（原価@450、売価@675）を試送した。当店は、対照勘定法による会計処理を行っており、得意先が買取りの意思表示を行った時点で収益を認識することになっている。

(借方) 試用売掛金	67,500	(貸方) 試用仮売上	67,500
------------	--------	------------	--------

5. 得意先渋谷商店に商品（原価 500,000円、売価 750,000円）を販売し、代金については、毎月末均等払いの6ヶ月賦とした。なお、割賦販売については販売基準を採用している。

(借方) 売掛金	750,000	(貸方) 割賦売上	750,000
----------	---------	-----------	---------

6. F商店は、I商店から商品（原価 1,700,000円、売価 2,000,000円）の販売委託を受けており、当月これを販売したため、I商店の手取額 1,600,000円を小切手で送金した。

(借方) 受託販売	1,600,000	(貸方) 当座預金	1,600,000
-----------	-----------	-----------	-----------

7. N商店は、おせち料理の予約販売を行っており、@11,000円（消費税@1,000円）の商品につき20個の予約があり、代金は全て受け取っている。本日、10個の商品を発送した。なお、消費税については、税込経理で処理している。

(借方) 前受金	110,000	(貸方) 売上	110,000
----------	---------	---------	---------

8. I商店は、F社から販売を委託された商品（売価 600,000円）及びI商店の仕入商品（売価 400,000円）をN商事に販売した。なお、販売代金のうち70%は他店振出の約束手形を裏書譲渡され、残額についてはN商事振出しの小切手で受け取った。

(借方) 受取手形	700,000	(貸方) 受託販売	600,000
現金	300,000	売上	400,000

9. 当社は、F商店から買付けを委託されていた商品 250,000円をN社から買付け、代金はN社を受取人とする約束手形を振り出して支払った。なお、商品引き取りの際に、P運送会社に引取運賃 1,000円を現金払いしている。

(借方) 受託買付	251,000	(貸方) 支払手形	250,000
		現金	1,000

10. 当社は、F商店に商品A（原価 250,000円、売価 400,000円）と商品B（原価 160,000円、売価 300,000円）を試用販売のため試送していた。本日、F商店から、商品Aを買い取る意思表示を受け、商品Bが返品された。当社は、試用販売について、試送時に試用品勘定に振り替え、売上げ（掛け）の都度、試用品勘定から仕入勘定に戻す処理を行っている。

(借方) 売掛金	400,000	(貸方) 売上	400,000
仕入	410,000	試用品	410,000

問4 有形固定資産 (20分)

次の各勘定科目群の中から最も適当と思われるものを選んで、下記取引の仕訳を行いなさい。

勘定科目群

現金	当座預金	受取手形	売掛金	未収金	建設仮勘定
建物	備品	火災未決算	前払金	貯蔵品	車両
支払手形	買掛金	修繕引当金	前受金	未払金	減価償却累計額
仕入	修繕費	火災損失	売上	車両売却損	固定資産除却損

1. 建物の定期修繕を行い、代金 1,000,000円は当社を名宛人とする為替手形を振出した。当修繕のために設定されている修繕引当金は 900,000円である。また、当修繕と同時に、耐用年数を延長するための耐震工事を行った。耐震工事代金 700,000円は翌月末に支払うこととした。

(借方) 修繕引当金	900,000	(貸方) 支払手形	1,000,000
修繕費	100,000		
建物	700,000	未払金	700,000

2. T社の商品倉庫で火災が発生し、建物（取得原価：2,500,000円、減価償却累計額：500,000円）と商品（仕入原価 200,000円）が焼失した。当倉庫には火災保険がかけられていたため、保険契約に基づき、2,000,000円の請求を行っていた。本日、保険会社から、保険金 1,700,000円を支払う旨の連絡があった。

(借方) 未収金	1,700,000	(貸方) 火災未決算	2,200,000
火災損失	500,000		

(注) 保険金 2,000,000円を請求したときに、次の仕訳が行われていた。

(借方) 減価償却累計額	500,000	(貸方) 建物	2,500,000
火災未決算	2,200,000	仕入	200,000

3. 建設中の建物が完成したため、工事代金の残額 6,500,000円を当座預金口座から指定口座に振込み、建物の引渡を受けた。同建物については、既に工事代金の35%が支払われている。

(借方) 建物	10,000,000	(貸方) 建設仮勘定	3,500,000
		当座預金	6,500,000

4. 備品 300,000円（減価償却累計額 250,000円、見積売却価値 23,000円）を期首に除却した。

(借方) 減価償却累計額	250,000	(貸方) 備品	300,000
貯蔵品	23,000		
固定資産除却損	27,000		

5. 車両（取得原価 2,000,000円、残存価額 10%、総走行可能距離 10万キロ）を400,000円の下取価額にて、新車両（価格 2,600,000円）に買替えた。下取車両の当期首までの総走行距離は 7万キロ、期首から売却時までの走行距離は 1万キロであり、代金は月末払いとした。

(借方) 減価償却累計額	1,260,000	(貸方) 車両	2,000,000
減価償却費	180,000	未払金	2,200,000
車両	2,600,000		
車両売却損	160,000		

累計額 $2,000,000 \times 0.9 \times 7 / 10$ 万キロ = 1,260,000
 減償費 $2,000,000 \times 0.9 \times 1 / 10$ 万キロ = 180,000

問5 約束手形・為替手形 (20分)

次の各勘定科目群の中から最も適当と思われるものを選んで、下記取引の仕訳を行いなさい。

勘定科目群

現金	当座預金	受取手形	売掛金	未収金	不渡手形
支払手形	買掛金	保証債務	前受金	未払金	前受利息
仕入	売上	受取利息	保証債務取崩益	有価証券利息	有価証券売却益

1. P銀行で割引いたT社振出しの約束手形 300,000円が不渡となったため、P銀行からの償還請求を受け、遅延利息を含め 303,000円を現金で支払うとともに、同額をT社に請求した。

(借方) 不渡手形	303,000	(貸方) 現金	303,000
-----------	---------	---------	---------

2. 売掛金の回収にあたって、得意先P社からT商会振出しの約束手形 500,000円の裏書譲渡を受けていた。当手形が満期日に決済されなかったため、P社に支払い請求をした。なお、償還請求に要した諸経費 5,000円を現金で支払っている。

(借方) 不渡手形	505,000	(貸方) 受取手形	500,000
		現金	5,000

3. T商事振出し当社宛ての約束手形 500,000円をN社へ裏書譲渡して買掛金決済にあてていた。当手形が不渡となり、支払拒絶されたN社から償還請求を受けたため、N社が支払った償還請求にかかる諸費用 3,500円と満期日以降の利息 5,000円をあわせた金額を小切手を振り出して支払った。なお、当手形を裏書譲渡した際に、額面金額の1%の保証債務を計上していた。

(借方) 不渡手形	508,500	(貸方) 当座預金	508,500
保証債務	5,000	保証債務取崩益	5,000

4. I社は、N商店に商品(原価 500,000円、売価 800,000円)を販売し、代金の60%はF商事振出しの約束手形を裏書譲渡された。残額については、当社を受取人、N商店を名宛人とする為替手形を振出し、同商店の引受を得た。

(借方) 受取手形	800,000	(貸方) 売上	800,000
-----------	---------	---------	---------

5. N社(3月決算)は、T商事振出しの約束手形 800,000円(満期日当年1月末日)を受け取っていたが、資金繰りの悪化を理由に、満期日を5ヶ月延長して欲しいとの申し出を受けた。このため、延長にかかる利息を含め、額面 810,000円の約束手形を1月末日に受け取ったが、未処理であった。決算にともない、受取利息の決算整理仕訳とあわせて会計処理した。

(借方) 受取手形	810,000	(貸方) 受取手形	800,000
		受取利息	4,000
		前受利息	6,000

問6 銀行勘定調整表・有価証券（20分）

次の各勘定科目群の中から最も適当と思われるものを選んで、下記取引の仕訳を行いなさい。

勘定科目群

現金	当座預金	受取手形	売掛金	未収金	売買目的有価証券
支払手形	買掛金	保証債務	前受金	未払金	前受利息
仕入	売上	受取利息	保証債務取崩益	有価証券利息	有価証券売却益

1. F株式会社は、買掛金支払いのための小切手 300,000円と、広告宣伝費支払いのための小切手 150,000円を振り出していたが、期末現在、これらの小切手が未渡しとなっていた。

(借方) 当座預金	450,000	(貸方) 買掛金	300,000
		未払金	150,000

2. 決算日の当座預金残高と当座預金残高証明書の残高の相違を調査したところ、売掛金回収による当座預金口座への振込み 100,000円が銀行から未達であったのと、通信費支払いのために振出した小切手 60,000円が相手先に未渡しとなっていたことが判明した。

(借方) 当座預金	160,000	(貸方) 売掛金	100,000
		未払金	60,000

3. 決算日の当座預金残高と当座預金残高証明書の残高の相違を調査したところ、次の3の事実が判明したため、これを適正に会計処理した。

- (1) 受取手形の支払期日到来にともなう当座振込み 600,000円が銀行から未達であった。
- (2) 通信費を支払うために振り出した小切手 150,000円が銀行に未呈示であった。
- (3) 買掛金を支払うために振り出した小切手 200,000円が取引先に未渡しであった。

(借方) 当座預金	800,000	(貸方) 受取手形	600,000
		買掛金	200,000

4. I社は、前期にN社株式（売買目的有価証券）を650円/株で4,000株購入し、前期末の決算において決算日の時価800円/株に評価替えしている。当期に当株式を1,200円/株で2,000株売却し、売却手数料1,500円を控除した金額を現金で受け取った。なお、有価証券の評価については、切り放し法を採用し、売買手数料は、有価証券の売却損益と相殺すること。

(借方) 現金	2,398,500	(貸方) 売買目的有価証券	1,600,000
		有価証券売却益	798,500

5. F社は、売買目的で保有していたN債券8,000口（取得原価776,000円）のうち、6,000口を98円/口で売却し、端数利息2,000円とともに小切手で受け取った。

(借方) 現金	590,000	(貸方) 売買目的有価証券	582,000
		有価証券売却益	6,000
		有価証券利息	2,000

@97×6,000口

@98×6,000口
+ 2,000円

問7 社債・有価証券 (20分)

次の各勘定科目群の中から最も適当と思われるものを選んで、下記取引の仕訳を行いなさい。

勘定科目群

現金	当座預金	受取手形	売掛金	未収金	売買目的有価証券
支払手形	買掛金	社債	前受金	未払金	前受利息
社債発行費	社債利息	社債発行費償却	社債償還益	有価証券利息	有価証券売却益

1. N社(3月決算)は、4月1日に、額面10,000,000円の社債(償還期間5年、利率4%、利払日3月末、9月末)を@100円につき@96円で発行した。払込金を当座預金とするとともに、社債発行にかかる諸費用100,000円を現金で支払った。

(借方) 当座預金	9,600,000	(貸方) 社債	9,600,000
社債発行費	100,000	現金	100,000

2. 上記社債の社債利息を3月31日に現金で支払った。また、決算にあたって、償却原価法(定額法)による評価替えを行うとともに、社債発行費は繰延資産として償還期間で償却する。

(借方) 社債利息	280,000	(貸方) 現金	200,000
		社債	80,000
社債発行費償却	20,000	社債発行費	20,000

3. F社(3月決算)は、平成×1年4月1日に@100円につき@96円で発行した額面1,000,000円の社債(償還期間5年)を平成×4年3月31日に@100円につき@98円で買入償還し、小切手を振り出して支払った。当社債は、毎期末、償却原価法(定額法)による評価替えを行っている。

$$(1,000,000円 - 960,000円) \div 5年$$

(借方) 社債利息	8,000	(貸方) 社債	8,000
社債	984,000	当座預金	980,000
		社債償還益	4,000

$$960,000円 + 40,000円 \times 36ヶ月 / 60ヶ月$$

※ 問題文中の@96や@98は、利子を含まない金額で、このような利子、配当等を含まない相場を「裸相場」と表現する場合がある。

4. I社(3月決算)は、平成×3年8月24日にF社社債(額面1,000,000円、利率4%、利払日は毎年3月末と9月末、償還期間5年)を@100円につき@96円で買入れ、買入手数料2,000円と端数利息を小切手を振り出して支払った。なお、当社債は、売買目的で保有している。

(借方) 売買目的有価証券	962,000	(貸方) 当座預金	978,000
有価証券利息	16,000		@96 × 10,000口 + 2,000円 + 16,000円

$$\text{端数利息} = 1,000,000円 \times 4\% \times (30日 + 31日 + 30日 + 31日 + 24日) / 365日 = 16,000円$$

5. 売買目的で保有している取得原価460,000円の国債(額面500,000円、年利4%、利払日は毎年3月末と9月末)を平成×7年8月24日に売却し、売却手数料3,000円を控除した487,000円を現金で受け取った。なお、この金額には、日割り計算した端数利息が含まれている。

(借方) 現金	487,000	(貸方) 売買目的有価証券	460,000
		有価証券利息	8,000
		有価証券売却益	19,000

$$\text{端数利息} = 500,000円 \times 4\% \times (30日 + 31日 + 30日 + 31日 + 24日) / 365日 = 8,000円$$

問 8 資本 (20分)

次の各勘定科目群の中から最も適当と思われるものを選んで、下記取引の仕訳を行いなさい。

勘定科目群

現金	当座預金	受取手形	売掛金	別段預金	売買目的有価証券
支払手形	未払配当金	別途積立金	利益準備金	繰越利益剰余金	株式申込証拠金
資本金	株式払込剰余金	資本準備金	創立費	開業費	有価証券売却益

1. 公募価格 50,000円/株で新株の引受けを募集したところ、申込期間中に 60株の応募があり、受け取った代金は別段預金とした。なお、資本金の増加は、払込期日に記帳する。

(借方) 別段預金	3,000,000	(貸方) 株式申込証拠金	3,000,000
-----------	-----------	--------------	-----------

2. 株主総会において、以下のような繰越利益剰余金の処分が行われた。

配当金： 1,500,000円 別途積立金： 500,000円

利益準備金： 会社法に定める必要額

なお、会社法上、利益準備金は、資本準備金と合わせて資本金の4分の1に達するまでは、配当金の10分の1以上積み立てる必要がある。前年度末の資本金、資本準備金、及び利益準備金は、それぞれ 8,000,000円、1,500,000円、300,000円であった。

(借方) 繰越利益剰余金	2,150,000	(貸方) 未払配当金	1,500,000
		別途積立金	500,000
		利益準備金	150,000

$$1,500,000 \times 10\% = 150,000 \text{円}$$

$$8,000,000 \times 1/4 - (1,500,000 + 300,000) = 200,000 \text{円}$$

$$150,000 \text{円} < 200,000 \text{円} \quad \therefore 150,000 \text{円}$$

3. I社は、新株 60株 (払込価額 50,000円/株) を発行し、払込期日までに申込証拠金の全額が払い込まれ、別段預金としていた。本日、払込期日となったため、資本金に会社法が規定する最低額を組み入れるとともに、別段預金を当座預金に振り替えた。

(借方) 株式申込証拠金	3,000,000	(貸方) 資本金	1,500,000
		資本準備金	1,500,000
当座預金	3,000,000	別段預金	3,000,000

4. 会社設立にあたり、定款記載の発行可能株式総数 600株のうち、300株を 1株 50,000円で発行し、その全額について引受け・払込みを受け、会社法の規定する最低額を資本金に組み入れた。なお、払込金については当座預金に預け入れている。また、設立から営業開始までの準備期間中に発起人が立て替えていた諸費用 100,000円を小切手を振り出して支払った。

(借方) 当座預金	15,000,000	(貸方) 資本金	7,500,000
		資本準備金	7,500,000
開業費	100,000	当座預金	100,000

5. F社は、経営不振から、繰越利益剰余金が 1,000,000円の借方残となっている。このため、株主総会において、別途積立金 1,000,000円を取り崩して、繰越利益剰余金の借方残を填補することが決議された。

(借方) 別途積立金	1,000,000	(貸方) 繰越利益剰余金	1,000,000
------------	-----------	--------------	-----------

問9 その他①(20分)

次の各勘定科目群の中から最も適当と思われるものを選んで、下記取引の仕訳を行いなさい。

勘定科目群

現金	当座預金	受取手形	売掛金	車両	保証債務見返
支払手形	買掛金	保証債務	未払消費税	未払金	前受金
租税公課	売上割引	仕入割引	福利厚生費	損益	未収金

1. 当社は、A商店の借入金 5,000,000円の債務保証を行っていた。A商店が当借入金の返済期日に返済しなかったため、債権者からの請求に基づき、遅延利息を含め 5,400,000円を小切手を振出して支払った。なお、保証債務は、対照勘定法を用いた備忘仕訳を行っていた。

(借方) 未収金	5,400,000	(貸方) 当座預金	5,400,000
保証債務	5,000,000	保証債務見返	5,000,000

2. N社では、決算書に基づいて消費税の計算を行い、納付税額を 2,000,000円とした。なお、消費税については、税込経理を行っている。

(借方) 租税公課	2,000,000	(貸方) 未払消費税	2,000,000
-----------	-----------	------------	-----------

3. 車両 10台 (@1,000,000円/台) を購入した。1台につき 50,000円の割戻しを受けることになったため、残額を小切手を振り出して支払った。

(借方) 車両	9,500,000	(貸方) 当座預金	9,500,000
---------	-----------	-----------	-----------

4. 買掛金 300,000円について、支払期日よりも早期に現金で支払ったため、1%の仕入割引を受けた。

(借方) 買掛金	300,000	(貸方) 現金	297,000
		仕入割引	3,000

5. 売掛金 300,000円について、当座預金口座への払込みがあった。この払込みは、当初の回収期日よりも早期に行われたため、得意先との約定に基づき、販売代金から1%を控除した金額であった。

(借方) 当座預金	297,000	(貸方) 売掛金	300,000
売上割引	3,000		

6. 当店は、前期において、F社と商品 2,000,000円の売買契約を締結し、200,000円を受け取っていた。当期にこの商品を発送し、残金のうち、1,000,000円は他店振出の約束手形を裏書譲渡され、800,000円は当店を受取人、F社を名宛人とする為替手形を振出し、F社の引き受けを得た。

(借方) 前受金	200,000	(貸方) 売上	2,000,000
受取手形	1,800,000		

問10 その他② (20分)

次の各勘定科目群の中から最も適切と思われるものを選んで、下記取引の仕訳を行いなさい。

勘定科目群

現金	当座預金	支店	N支店	仮払法人税等	未払法人税等
F支店	買掛金	従業員預り金	未払消費税	未払金	総合損益
法人税等	貸倒損失	繰越利益剰余金	福利厚生費	損益	還付法人税等

1. F社は、決算時に、法人税 800,000円、住民税 350,000円、事業税 100,000円を計上した。なお、中間納付した法人税 420,000円、住民税 180,000円、事業税 50,000円は仮払処理している。

(借方) 法人税等	1,250,000	(貸方) 仮払法人税等	650,000
		未払法人税等	600,000

2. I社は、従業員の給与から源泉徴収していた所得税 300,000円、住民税 150,000円、及び社会保険料 50,000円について、社会保険料の会社負担分 50,000円と併せて、関係機関に現金納付した。

(借方) 従業員預り金	500,000	(貸方) 現金	550,000
福利厚生費	50,000		

3. 決算日付で、当期純利益 400,000円の計上仕訳を行った。

(借方) 損益	400,000	(貸方) 繰越利益剰余金	400,000
---------	---------	--------------	---------

4. F社の本店は、支店から年間の純利益が 900,000円である旨の報告を受けた。その後の決算手続きの過程で、本店が立替払いした支店の営業費 5,000円が支店に未達であることが判明した。そこで、本店が行うべき未達取引考慮後の支店純利益振替仕訳を示しなさい。

(借方) 支店	895,000	(貸方) 総合損益	895,000
---------	---------	-----------	---------

5. N社が前年分の法人税等について行った更正の請求に基づき、税金が 123,000円還付され、当座預金口座に振り込まれた。

(借方) 当座預金	123,000	(貸方) 還付法人税等	123,000
-----------	---------	-------------	---------

6. 当期に掛売りした売掛金のうち、50,000円が貸し倒れたため、期中に貸倒処理している。決算日に、このうち 20,000円を現金で回収することができた。

(借方) 現金	20,000	(貸方) 貸倒損失	20,000
---------	--------	-----------	--------

7. F支店がN支店の旅費交通費 12,000円を現金で立替払いした際の本店の仕訳を示しなさい。なお、当社は、本店集中計算制度によって支店間取引の会計処理を行っている。

(借方) N支店	12,000	(貸方) F支店	12,000
----------	--------	----------	--------

第2問対策 ① 帳簿組織 (20点) 20分

12月末を決算日としているF社は、当座預金出納帳、仕入帳、売上帳、受取手形記入帳、及び支払手形記入帳を特殊仕訳帳として使用している。答案用紙に示されている期首(1月1日)の残高試算表と、以下の同社の1月中の各種特殊仕訳帳、及び普通仕訳帳の記録にもとづいて、1月31日の残高試算表を作成しなさい。

(1) 1月中の各種特殊仕訳帳の記録

当座預金出納帳

(借方) 売上欄合計	106,000	(貸方) 仕入欄合計	73,000
売掛金欄合計	133,000	買掛金欄合計	88,000
受取手形欄合計	248,000	支払手形欄合計	146,000
諸口欄内訳: 未収金	42,000	諸口欄内訳: 未払金	33,000
貸付金	120,000	広告宣伝費	265,000
受取家賃	5,000	支払地代	142,000

仕入帳

当座預金欄合計	73,000
買掛金欄合計	128,000
支払手形欄合計	90,000

売上帳

当座預金欄合計	106,000
売掛金欄合計	230,000
受取手形欄合計	124,000

支払手形記入帳

仕入欄合計	90,000
買掛金欄合計	141,000

受取手形記入帳

売上欄合計	124,000
売掛金欄合計	223,000

(2) 1月中の普通仕訳帳の記録

普通仕訳帳

日付	摘要	元丁	借方	貸方
1	1 (未払地代)		49,000	
	(支払地代)			49,000
15	(買掛金) 諸口		76,000	
	(現金)			73,000
	(仕入割引)			3,000
20	(広告宣伝費) 諸口		300,000	
	(当座預金)			265,000
	(未払金)			35,000

(解答手順の例)

- ① 当座預金出納帳から当座預金の純増減額を計算して、T/Bへ転記する。
- ② 仕入帳、売上帳、支払手形記入帳、受取手形記入帳から、それぞれの増加額を把握する。
- ③ 受取手形と支払手形の減少額を、当座預金出納帳の特設欄と普通仕訳帳から把握する。
- ④ 売掛金と買掛金の増加額は売上帳と仕入帳から、減少額は特設欄、諸口、普通仕訳帳からもれなく集計する。
- ⑤ ①~④以外は、特殊仕訳帳の諸口欄と普通仕訳帳からT/Bへ転記する。この際、特殊仕訳帳の諸口欄と普通仕訳帳の両方に出てくる取引は、普通仕訳帳の金額を使う。
ex. 広告宣伝費 300,000円 VS 265,000円

残高試算表

借 方		勘 定 科 目	貸 方	
1月31日	1月1日		1月1日	1月31日
341,000	414,000	現 金		
173,000	266,000	当 座 預 金		
1,042,000	943,000	受 取 手 形		
775,000	901,000	売 掛 金		
506,000	506,000	売 買 目 的 有 価 証 券		
50,000	170,000	貸 付 金		
626,000	626,000	繰 越 商 品		
9,000	51,000	未 収 金		
2,300,000	2,300,000	備 品		
		支 払 手 形	550,000	635,000
		買 掛 金	941,000	764,000
		未 払 金	33,000	35,000
		未 払 地 代	49,000	
		貸 倒 引 当 金	48,500	48,500
		備 品 減 価 償 却 累 計 額	935,000	935,000
		資 本 金	2,725,000	2,725,000
		繰 越 利 益 剰 余 金	895,500	895,500
		売 上		460,000
		受 取 家 賃		5,000
291,000		仕 入		
300,000		広 告 宣 伝 費		
93,000		支 払 地 代		
		(仕 入 割 引)		3,000
6,506,000	6,177,000		6,177,000	6,506,000

※ ゴシック体の金額は、答案用紙に印刷されている。

各特殊仕訳帳に記帳されている取引の合計仕訳と普通仕訳帳の仕訳を示すと次のようになる。
 なお、印の金額は二重仕訳となるため転記しない。

当座預金出納帳

当 座 預 金	654,000	売 上 <input checked="" type="checkbox"/>	106,000
		売 掛 金	133,000
		受 取 手 形	248,000
		未 収 金	42,000
		貸 付 金	120,000
		受 取 家 賃	5,000
仕 入 <input checked="" type="checkbox"/>	73,000	当 座 預 金	747,000
買 掛 金	88,000		
支 払 手 形	146,000		
未 払 金	33,000		
広 告 宣 伝 費 <input checked="" type="checkbox"/>	265,000		
支 払 地 代	142,000		

普通仕訳帳

未 払 地 代	49,000	支 払 家 賃	49,000
買 掛 金	76,000	現 金	73,000
		仕 入 割 引	3,000
広 告 宣 伝 費	300,000	当 座 預 金 <input checked="" type="checkbox"/>	265,000
		未 払 金	35,000

仕入帳

仕 入	291,000	当 座 預 金 <input checked="" type="checkbox"/>	73,000
		買 掛 金	128,000
		支 払 手 形 <input checked="" type="checkbox"/>	90,000

売上帳

当 座 預 金 <input checked="" type="checkbox"/>	106,000	売 上	460,000
売 掛 金	230,000		
受 取 手 形 <input checked="" type="checkbox"/>	124,000		

支払手形記入帳

仕 入 <input checked="" type="checkbox"/>	90,000	支 払 手 形	231,000
買 掛 金	141,000		

受取手形記入帳

受 取 手 形	347,000	売 上 <input checked="" type="checkbox"/>	124,000
		売 掛 金	223,000

第2問対策 ② 帳簿組織 (20点) 20分

F I N商店 (1年決算、決算日は3月31日) は、当座預金出納帳、仕入帳、売上帳、受取手形記入帳、及び支払手形記入帳を特殊仕訳帳として使用している。答案用紙に示されている期首の残高試算表と、以下の同社の4月中の普通仕訳帳の記録、および各種特殊仕訳帳の記録にもとづいて、4月30日の残高試算表を作成しなさい。

[資料]

1. 平成×2年4月中の普通仕訳帳の記入内容

普通仕訳帳

日付	摘要	元丁	借方	貸方
4 1	(未払保険料)		900	
	(各自推定)			900
7	(買掛金)	省	18,000	
	(受取手形)			18,000
13	諸口 (車両)			225,000
	(当座預金)		75,000	
	(車両減価償却累計額)		148,000	
	(車両売却損)		2,000	
19	(貸倒引当金)	略	3,000	
	(売掛金)			3,000
27	(買掛金)		24,000	
	(売掛金)			24,000

2. 平成×2年4月中の特殊仕訳帳の記入内容

(1) 当座預金出納帳

(借方) 売上欄合計	212,000	(貸方) 仕入欄合計	58,000
売掛金欄合計	184,200	買掛金欄合計	131,000
受取手形欄合計	72,000	支払手形欄合計	80,000
諸口欄内訳: 車両	75,000	諸口欄内訳: 車両	225,000
借入金	40,000	保険料	2,400
		広告費	125,000

(2) 仕入帳

当座預金欄合計	58,000
買掛金欄合計	165,000
支払手形欄合計	42,000

(3) 売上帳

当座預金欄合計	212,000
売掛金欄合計	285,000
受取手形欄合計	63,000

(4) 受取手形記入帳

売上欄合計	63,000
売掛金欄合計	32,000

(5) 支払手形記入帳

仕入欄合計	42,000
買掛金欄合計	18,000

残高試算表

借 方		勘定科目	貸 方	
× 2年 4月 30日	× 2年 3月 31日		× 2年 3月 31日	× 2年 4月 30日
473,800	512,000	当座預金		
191,000	186,000	受取手形		
227,800	186,000	売掛金		
76,000	76,000	繰越商品		
445,000	445,000	車 両		
		支払手形	210,000	190,000
		買掛金	254,000	228,000
		借入金	225,000	265,000
		未払保険料	900	
		貸倒引当金	8,000	5,000
		車両減価償却累計額	240,200	92,200
		資本金	466,900	466,900
		売 上		560,000
265,000		仕 入		
125,000		広告費		
1,500		保険料		
2,000		車両売却損		
1,807,100	1,405,000		1,405,000	1,807,100

※ ゴシック体の金額は、答案用紙に印刷されている。

各特殊仕訳帳に記帳されている取引の合計仕訳と普通仕訳帳の仕訳を示すと次のようになる。
 なお、印の金額は二重仕訳となるため転記しない。

当座預金出納帳

当座預金	583,200	売 上	<input checked="" type="checkbox"/> 212,000
		売掛金	184,200
		受取手形	72,000
		車 両	<input checked="" type="checkbox"/> 75,000
		借入金	40,000
		当座預金	621,400
仕 入	<input checked="" type="checkbox"/> 58,000		
買掛金	131,000		
支払手形	80,000		
車 両	225,000		
保険料	2,400		
広告費	125,000		

仕入帳

仕 入	265,000	当座預金	<input checked="" type="checkbox"/> 58,000
		買掛金	165,000
		支払手形	<input checked="" type="checkbox"/> 42,000

売上帳

当座預金	<input checked="" type="checkbox"/> 212,000	売 上	560,000
売掛金	285,000		
受取手形	<input checked="" type="checkbox"/> 63,000		

受取手形記入帳

受取手形	95,000	売 上	<input checked="" type="checkbox"/> 63,000
		売掛金	32,000

支払手形記入帳

仕 入	<input checked="" type="checkbox"/> 42,000	支払手形	60,000
買掛金	18,000		

普通仕訳帳

未払保険料	900	保 險 料	900
買掛金	18,000	受取手形	18,000
当座預金	<input checked="" type="checkbox"/> 75,000	車 両	225,000
車両減価償却累計額	148,000		
車両売却損	2,000		
貸倒引当金	3,000	売掛金	3,000
買掛金	24,000	売掛金	24,000

第2問対策 ③ 伝票会計(20点)20分

当店では、伝票会計を採用し、毎日の取引を入金伝票、出金伝票、仕入伝票、売上传票、振替伝票に記帳し、これを1日ずつ集計して仕訳日計表を作成している。当店の平成×5年7月1日の取引に関する次の伝票記入の資料に基づき、答案用紙の(1)仕訳日計表を完成させ、(2)各元帳に金額を記入しなさい。

入金伝票 No. 101 受取手数料 26,000	出金伝票 No. 201 立替金 15,000	振替伝票 No. 301 売上割引 4,000 売掛金(B商店) 4,000
入金伝票 No. 102 売掛金(A商店) 86,000	出金伝票 No. 202 消耗品費 35,000	振替伝票 No. 302 接待交際費 24,000 当座預金 24,000
入金伝票 No. 103 売掛金(B商店) 65,000	出金伝票 No. 203 借入金 45,000	振替伝票 No. 303 未収金 8,000 土地 7,000 土地売却益 1,000
入金伝票 No. 104 当座預金 59,000	出金伝票 No. 204 買掛金(X商店) 52,000	振替伝票 No. 304 買掛金(Y商店) 39,000 売掛金(A商店) 39,000
入金伝票 No. 105 立替金 7,500	出金伝票 No. 205 支払地代 76,000	振替伝票 No. 305 当座預金 42,000 貸付金 42,000
仕入伝票 No. 401 Y商店 123,000	売上传票 No. 501 A商店 198,000	振替伝票 No. 306 受取手形 98,000 売掛金(C商店) 98,000
仕入伝票 No. 402 Z商店 65,000	売上传票 No. 502 C商店 211,000	振替伝票 No. 307 建物 246,000 当座預金 246,000
仕入伝票 No. 403 X商店 172,000	売上传票 No. 503 B商店 191,000	振替伝票 No. 308 当座預金 250,000 預り金 250,000
仕入伝票 No. 404 X商店 32,000 戻し	売上传票 No. 504 C商店 24,000 戻し	

(解答手順の例)

- ① 入金伝票から入金合計、出金伝票から出金合計を計算し、仕訳日計表へ記帳する。
- ② 仕入伝票から仕入合計、仕入返品等、買掛金増加額を計算し、仕訳日計表へ記帳する。
- ③ 売上传票から売上合計、売上返品等、売掛金増加額を計算し、仕訳日計表へ記帳する。
- ④ ①～③以外は、仕訳日計表の各項目の金額を一つずつ、伝票から集計する。

仕 訳 日 計 表

平成×5年7月1日

No.701

借 方	元丁	勘 定 科 目	貸 方
243,500	001	現 金	223,000
292,000		当 座 預 金	329,000
98,000		受 取 手 形	
600,000		売 掛 金	316,000
8,000		未 収 金	
15,000		立 替 金	7,500
		貸 付 金	42,000
246,000		建 物	
		土 地	7,000
123,000	403	買 掛 金	360,000
		預 り 金	250,000
45,000		借 入 金	
24,000		売 上	600,000
		受 取 手 数 料	26,000
360,000		仕 入	32,000
76,000		支 払 地 代	
24,000		接 待 交 際 費	
35,000		消 耗 品 費	
		土 地 売 却 益	1,000
4,000		売 上 割 引	
2,193,500			2,193,500

総 勘 定 元 帳

現 金 No.001

買 掛 金 No.403

摘 要	仕 丁	借 方	貸 方	借 / 貸	残 高
7 1 前月繰越	✓	666,000		借	666,000
# 仕訳日計表	701	243,500		"	909,500
# 仕訳日計表	"		223,000	"	686,500

摘 要	仕 丁	借 方	貸 方	借 / 貸	残 高
7 1 前月繰越	✓		345,000	貸	345,000
# 仕訳日計表	701		360,000	"	705,000
# 仕訳日計表	"	123,000		"	582,000

※ ゴシック体の金額等は、答案用紙に印刷されている。

得 意 先 元 帳

A 商 店 得 1

C 商 店 得 2

摘 要	仕 丁	借 方	貸 方	借 / 貸	残 高
7 1 前月繰越	✓	398,000		借	398,000
# 売上伝票	501	198,000		"	596,000
# 入金伝票	102		86,000	"	510,000
# 振替伝票	304		39,000	"	471,000

摘 要	仕 丁	借 方	貸 方	借 / 貸	残 高
7 1 前月繰越	✓	455,000		借	455,000
# 売上伝票	502	211,000		"	666,000
# 売上伝票	504		24,000	"	642,000
# 振替伝票	306		98,000	"	544,000

第2問対策 ④ 伝票会計 (20点) 20分

当店では、伝票会計を採用し、毎日の取引を入金伝票、出金伝票、仕入伝票、売上传票、振替伝票に記帳し、これを1日ずつ集計して仕訳日計表を作成している。当店の平成×5年8月1日の取引に関する次の伝票記入の資料に基づき、答案用紙の(1)仕訳日計表を完成させ、(2)各元帳に金額を記入しなさい。なお、()の金額は各自推定すること。

入金伝票 No. 101 受取手形 22,500	出金伝票 No. 201 支払手形 ()	振替伝票 No. 301 受取手形 5,300 売掛金(P商店) 5,300
入金伝票 No. 102 貸付金 116,000	出金伝票 No. 202 買掛金(F商店) 2,500	振替伝票 No. 302 買掛金(F商店) () 受取手形 ()
入金伝票 No. 103 売掛金(P商店) 21,500	出金伝票 No. 203 買掛金(I商店) ()	振替伝票 No. 303 受取手形 () 売掛金(N商店) ()
入金伝票 No. 104 売掛金(N商店) ()	出金伝票 No. 204 給料 36,000	振替伝票 No. 304 買掛金(I商店) () 支払手形 ()
入金伝票 No. 105 受取利息 2,700	出金伝票 No. 205 備品 12,000	振替伝票 No. 305 買掛金(F商店) () 売掛金(P商店) ()
仕入伝票 No. 401 買掛金(F商店) ()	売上传票 No. 501 売掛金(P商店) ()	
仕入伝票 No. 402 買掛金(I商店) 51,000	売上传票 No. 502 売掛金(N商店) ()	
仕入伝票 No. 403 買掛金(I商店) () 値引	売上传票 No. 503 売掛金(N商店) () 返品	

仕 訳 日 計 表

借 方	元丁	勘 定 科 目	元丁	貸 方
183,500	省	現 金	省	71,000
27,000		受 取 手 形		33,300
120,000		売 掛 金		94,700
		貸 付 金		116,000
12,000		備 品		
13,000		支 払 手 形		16,000
62,800		買 掛 金		84,000
1,400		売 上		120,000
		受 取 利 息		2,700
84,000		略		略
36,000				
539,700			539,700	

第3問対策 ① 本支店会計（20点）40分

次の資料に基づいて、F社の×8年3月31日の本支店合併損益計算書と本支店合併貸借対照表を作成しなさい。なお、F社では、本店から支店へ商品を発送する際は、毎期、原価の20%の利益を付加している。F社の会計期間は1年、決算日は3月31日である。

1. 決算整理前残高試算表

残 高 試 算 表

借 方	本 店	支 店	貸 方	本 店	支 店
現金預金	111,100	41,600	支払手形	26,600	32,400
受取手形	42,600	12,400	買掛金	23,400	22,200
売掛金	54,500	8,500	本店	—	227,400
繰越商品	45,600	15,000	貸倒引当金	320	220
支店	?	—	建物減価償却累計額	56,400	16,200
土地	321,000	176,220	繰延内部利益	?	—
建物	260,000	60,000	長期借入金	120,000	—
仕入	1,539,520	384,200	資本金	600,000	—
本店より仕入	—	?	利益準備金	30,000	—
営業費	392,800	26,400	繰越利益剰余金	12,000	—
支払利息	3,200	—	売上	1,901,200	638,500
土地売却損	4,200	—	支店へ売上	244,600	—
			受取家賃	—	20,000
	?	?		?	?

2. 未達事項

- (1) 本店から支店へ現金 9,000円を送金したが、支店に未達である。
- (2) 本店から支店へ商品 12,000円を発送したが、支店に未達である。
- (3) 支店は、本店の売掛金 8,000円を現金で回収したが、その通知が本店に未達である。
- (4) 支店は、支店の買掛金 4,800円を支払うため、本店を名宛人、仕入先を受取人とする為替手形を振り出したが、その通知が本店に未達である。
- (5) 本店は、支店の営業費 6,400円を立替払いしたが、その通知が支店に未達である。

3. 期末整理事項

- (1) 商品の期末棚卸高は次の通りである（支店の期末棚卸高には未達分は含まれていない）。
 本店：帳簿棚卸高 34,800円
 支店：帳簿棚卸高 16,300円（このうち、8,400円は本店から仕入れた商品である）
- (2) 期末売上債権に対して2%の貸倒引当金を差額補充法により設定する。
- (3) 建物の減価償却費は、本店、支店ともに定額法（耐用年数25年、残存価額10%）による。
- (4) 営業費の未払額が、本店に2,400円、支店に800円ある。
- (5) 長期借入金は、本店が平成×6年12月1日に借入期間6年、年利率4%の条件で借り入れたものである。支払利息は毎年11月30日に1年分を後払いする契約である。
- (6) 支店では、毎年8月1日に向こう12ヶ月分の受取家賃を受け取っている。

1. 未達事項

本 店 の 仕 訳

(3) 本店売掛金 8,000円の回収が本店に未達

支 店	8,000	売掛金	8,000
-----	-------	-----	-------

(4) 本店を名宛人とする為替手形 4,800円を振出したが、本店に未達

支 店	4,800	支払手形	4,800
-----	-------	------	-------

支 店 の 仕 訳

(1) 支店へ送金した現金 9,000円が支店に未達

現 金	9,000	本 店	9,000
-----	-------	-----	-------

(2) 12,000円の商品発送が支店に未達

本店仕入	12,000	本 店	12,000
------	--------	-----	--------

(5) 支店の営業費 6,400円を立替払いしたが、支店に未達

営業費	6,400	本 店	6,400
-----	-------	-----	-------

2. 決算整理仕訳（本店と支店の合計）

(1)

仕 入	60,600	繰越商品	60,600
繰越商品	63,100	仕 入	63,100

(2)

貸倒引当金繰入額	1,660	貸倒引当金	1,660
----------	-------	-------	-------

(4)

営業費	3,200	未払営業費	3,200
-----	-------	-------	-------

(6)

受取家賃	5,000	前受家賃	5,000
------	-------	------	-------

(3)

減価償却費	11,520	減価償却累計額	11,520
-------	--------	---------	--------

(5)

支払利息	1,600	未払利息	1,600
------	-------	------	-------

損 益 計 算 書

費 用	金 額	収 益	金 額
期首商品棚卸高	(58,600)	売 上 高	2,539,700
当期商品仕入高	(1,923,720)	期末商品棚卸高	(59,700)
貸倒引当金繰入	(1,660)	受 取 家 賃	(15,000)
減 価 償 却 費	(11,520)		
営 業 費	(428,800)		
支 払 利 息	(4,800)		
土 地 売 却 損	(4,200)		
当期純(利益)	(181,100)		
	(2,614,400)		2,614,400

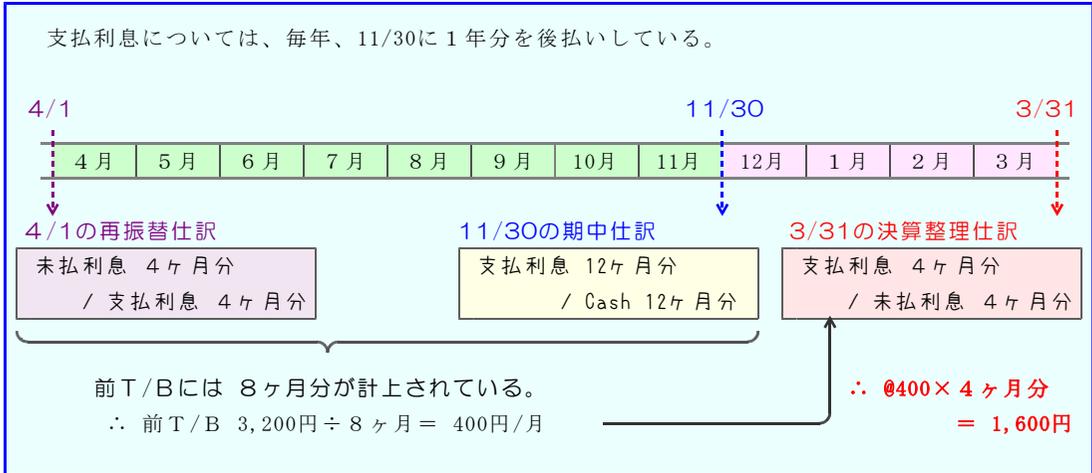
貸 借 対 照 表

資 産	金 額	負債・純資産	金 額
現 金 預 金	(161,700)	支 払 手 形	(63,800)
受 取 手 形	(55,000)	買 掛 金	(45,600)
売 掛 金	(55,000)	(未 払) 費 用	(4,800)
貸倒引当金	(2,200) (107,800)	(前 受) 収 益	(5,000)
商 品	(59,700)	長 期 借 入 金	120,000
土 地	497,220	資 本 金	600,000
建 物	(320,000)	利 益 準 備 金	30,000
減価償却累計額	(84,120) (235,880)	繰 越 利 益 剰 余 金	(193,100)
	(1,062,300)		(1,062,300)

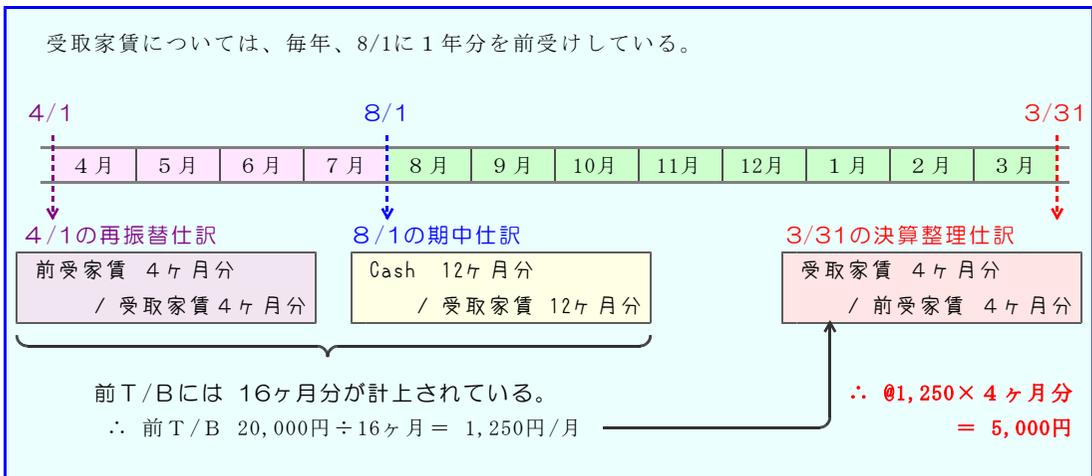
精 算 表

勘定科目	本店		支店		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金預金	111,100		41,600		9,000				161,700	
受取手形	42,600		12,400						55,000	
売掛金	54,500		8,500			8,000			55,000	
繰越商品	45,600		15,000		63,100	60,600			63,100	
支店	242,000				12,800	254,800				
土地	321,000		176,220						497,220	
建物	260,000		60,000						320,000	
支払手形		26,600		32,400		4,800				63,800
買掛金		23,400		22,200						45,600
本店				227,400	254,800	27,400				
貸倒引当金		320		220		1,660				2,200
建物減価償却累計額		56,400		16,200		11,520				84,120
繰延内部利益		2,000			2,000	3,400				3,400
長期借入金		120,000								120,000
資本金		600,000								600,000
利益準備金		30,000								30,000
繰越利益剰余金		12,000								12,000
売上		1,901,200		638,500				2,539,700		
支店売上		244,600			244,600					
受取家賃				20,000	5,000			15,000		
仕入	1,539,520		384,200		60,600	63,100	1,921,220			
本店仕入			232,600		12,000	244,600				
営業費	392,800		26,400		9,600		428,800			
支払利息	3,200				1,600		4,800			
土地売却損	4,200						4,200			
	3,016,520	3,016,520	956,920	956,920						
未払費用						4,800				4,800
前受収益						5,000				5,000
減価償却費					11,520		11,520			
繰越内部利益戻入						2,000		2,000		
繰越内部利益控除					3,400		3,400			
貸倒引当金繰入額					1,660		1,660			
当期純利益							181,100			181,100
					691,680	691,680	2,556,700	2,556,700	1,152,020	1,152,020

支払利息について



受取家賃について



第3問対策 ② 精算表の作成 (20点) 40分

次の資料にもとづいて、会計期間を4月1日より翌年3月31日までとするF社の平成×7年3月決算にかかわる精算表を完成しなさい。

〔資料Ⅰ〕 未処理事項

- 現金の実際在高と帳簿残高との相違を現金過不足勘定に振り替え、発生原因を調査したところ、次の事実が判明した。なお、発生原因不明のものについては、適切な処理を行った。
 - 小切手による売掛金 17,500円の回収を誤って 15,700円と記入していた。
 - 営業費 800円の記入漏れがあった。
- 未決算 100,000円は、火災保険金の請求にあたって計上したものである。保険会社からの火災保険金 75,000円が当座預金口座に振り込まれていたが、銀行から未達であったので、適切に会計処理するとともに、残額を火災損失勘定に振り替える。
- 建設仮勘定 400,000円は、建物の建築工事（工事代金総額 550,000円）への支出金額であるが、工事はすでに完了し、当期の12月1日に引渡しを受けていた。なお、工事代金の残金 150,000円は、×8年4月30日に支払う契約となっている。

〔資料Ⅱ〕 決算整理事項

- 期末商品棚卸高は次の通りである。売上原価は仕入の行で計算をすること。

	帳簿棚卸数量	実地棚卸数量	帳簿価額	時価
A 商品	425個	400個	@¥130	@¥145
B 商品	175個	155個	@¥350	@¥350
C 商品	800個	750個	@¥150	@¥120

商品評価損および棚卸減耗損は売上原価の内訳科目として処理する。ただし、期末商品の帳簿棚卸高の合計金額の5%を超える棚卸減耗損は原価性のないものとして、営業外費用として処理をしている。なお、商品評価損および棚卸減耗損は商品ごとに算定すること。

- 有価証券の内訳は次のとおりである。

	帳簿価額	時価	保有目的
A 株式	48,000円	50,000円	売買目的
B 株式	26,800円	25,800円	売買目的
C 社社債	24,550円	23,700円	満期保有目的

なお、C社社債（額面総額 25,000円、利率年4%、期間5年、利払日は3月末と9月末）は、平成×4年4月1日に発行と同時に額面100円につき97円の価額で取得したものであり、期末評価は、償却原価法（定額法）により行う。

- 期末売上債権の残高に対して、差額補充法により、5%の貸倒引当金を設定する。
- 有形固定資産の減価償却は、次の要領で行う（当期に取得した建物についても同様）。
 - 建物：定額法（耐用年数は30年、残存価額は取得原価の10%）により計算する。
 - 備品：定率法（償却率は年20%）により計算する。
- のれんは平成×2年4月1日に他社を買収した際に計上したものであり、取得年度より定額法（償却期間は10年）により償却してきている。
- 支払保険料のうち1,500円は、当期の1月1日に1年分の保険料を前払いしたものである。

精 算 表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	142,000							
現金過不足		1,250						
当座預金	275,000							
受取手形	715,750							
売掛金	793,750							
売買目的有価証券	74,800							
繰越商品	225,250							
建物	1,500,000							
備品	300,000							
建設仮勘定	400,000							
満期保有目的債券	24,550							
未決算のれん	100,000 3,000							
支払手形		593,500						
買掛金		325,000						
貸倒引当金		74,600						
建物減価償却累計額		450,000						
備品減価償却累計額		141,400						
資本金		1,500,000						
利益準備金		225,000						
繰越利益剰余金		1,181,350						
売上		5,046,250						
有価証券利息		1,000						
仕入	4,255,250							
給料	461,000							
営業費	261,500							
支払保険料	7,500							
	9,539,350	9,539,350						
火災損失								
雑()								
減価償却費								
未払金								
商品評価損								
棚卸減耗損								
有価証券評価益								
貸倒引当金繰入								
のれん償却								
前払保険料								
当期純損失								

1.	(借方) 現金過不足	1,800	(貸方) 売掛金	1,800
	営業費	800	現金過不足	800
	現金過不足	250	雑益	250

2.	(借方) 当座預金	75,000	(貸方) 未決算	100,000
	火災損失	25,000		

3.	(借方) 建物	550,000	(貸方) 建設仮勘定	400,000
			未払金	150,000

1.	(借方) 仕入	225,250	(貸方) 繰越商品	225,250
	繰越商品	236,500	仕入	236,500

(借方) 商品評価損	22,500	(貸方) 繰越商品	22,500
棚卸減耗損	17,750	繰越商品	17,750

帳簿 236,500円

△ 22,500	△ 3,250	} 17,750 - 11,825 = 5,925
	△ 7,000	
	△ 7,500	

× 5 %

400個 425個
155個 175個
750個 800個

(借方) 仕入	22,500	(貸方) 商品評価損	22,500
仕入	11,825	棚卸減耗損	11,825

2.	(借方) 売買目的有価証券	1,000	(貸方) 有価証券評価益	1,000
----	---------------	-------	--------------	-------

(時価 50,000 - 帳簿 48,000) + (時価@ 25,800 - 帳簿 26,800) = 1,000

(借方) 満期保有目的債券	150	(貸方) 有価証券利息	150
---------------	-----	-------------	-----

$25,000 \div @100 \times (@100 - @97) \div 5 \text{年} = 150 \text{円/年}$

3.	(借方) 貸倒引当金繰入	785	(貸方) 貸倒引当金	785
----	--------------	-----	------------	-----

$(715,750 + 793,750 - 1,800) \times 5\% - \text{前T/B } 74,600 = 785$

4.	(借方) 減価償却費	50,500	(貸方) 建物減価償却累計額	50,500
	減価償却費	31,720	備品減価償却累計額	31,720

建物 : $1,500,000 \times 0.9 \div 30 \text{年} + 550,000 \times 0.9 \div 30 \text{年} \times 4 \text{ヶ月} / 12 \text{ヶ月} = 50,500$

備品 : $(300,000 - 141,400) \times 0.2 = 31,720$

5.	(借方) のれん償却	500	(貸方) のれん	500
----	------------	-----	----------	-----

$3,000 \div 6 \text{年} (\text{期首} \sim \text{償却終了日}) = 500 \text{円/年}$

6.	(借方) 前払保険料	1,125	(貸方) 支払保険料	1,125
----	------------	-------	------------	-------

$1,500 \div 12 \text{ヶ月} \times 9 \text{ヶ月} (\text{翌期首} \sim \text{翌12月31日}) = 1,125 \text{円}$

精 算 表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	142,000						142,000	
現金過不足		1,250	1,800	800				
			250					
当座預金	275,000		75,000				350,000	
受取手形	715,750						715,750	
売掛金	793,750			1,800			791,950	
売買目的有価証券	74,800		1,000				75,800	
繰越商品	225,250		236,500	225,250			196,250	
				22,500				
				17,750				
建物	1,500,000		550,000				2,050,000	
備品	300,000						300,000	
建設仮勘定	400,000			400,000				
満期保有目的債券	24,550		150				24,700	
未決算	100,000			100,000				
のれん	3,000			500			2,500	
支払手形		593,500						593,500
買掛金		325,000						325,000
貸倒引当金		74,600		785				75,385
建物減価償却累計額		450,000		50,500				500,500
備品減価償却累計額		141,400		31,720				173,120
資本金		1,500,000						1,500,000
利益準備金		225,000						225,000
繰越利益剰余金		1,181,350						1,181,350
売上		5,046,250				5,046,250		
有価証券利息		1,000		150		1,150		
仕入	4,255,250		225,250	236,500	4,278,325			
			22,500					
			11,825					
給料	461,000				461,000			
営業費	261,500		800		262,300			
支払保険料	7,500			1,125	6,375			
	9,539,350	9,539,350						
火災損失			25,000		25,000			
雑(益)				250		250		
減価償却費			82,220		82,220			
未払金				150,000				150,000
商品評価損			22,500	22,500				
棚卸減耗損			17,750	11,825	5,925			
有価証券評価益				1,000		1,000		
貸倒引当金繰入			785		785			
のれん償却			500		500			
前払保険料			1,125				1,125	
当期純損失						73,780	73,780	
			1,274,955	1,274,955	5,122,430	5,122,430	4,723,855	4,723,855

第3問対策 ③ 精算表の作成 (20点) 40分

次の資料にもとづいて、平成×9年3月31日の決算（会計期間は1年）にあたって作成される答案用紙の精算表を完成しなさい。

〔資料〕 決算整理その他の事項

1. 当座預金の帳簿残高と銀行の残高証明書の金額が不一致であったため、その原因を調査したところ、次の事実が判明した。
 - (1) 得意先から裏書譲渡された約束手形を銀行に取立依頼していた。その決済代金 12,000円が当座預金口座に振り込まれていたが、その通知が銀行から未達であった。
 - (2) 商品の仕入代金 6,200円について、仕入先に小切手を振り出して支払っていたが、仕入先がこの小切手を銀行に呈示していなかった。
2. 固定資産に係る次の取引が未処理であった。
 - (1) 使用不能となった備品（取得原価 125,000円、減価償却累計額 78,750円）を平成×8年9月30日に売却し、45,000円を現金で受け取っていた。
 - (2) 建設中であった建物の工事が完了し、11月1日に引渡しを受けた。この建物の工事代金の残金 50,000円は、翌期に支払う予定である。なお、建設仮勘定の金額は、すべてこの建物にかかわるものである。
3. 受取手形と売掛金の期末残高に対して、差額補充法により貸倒引当金（繰入率 2%）を設定する。
4. 商品の期末棚卸高は次のとおりである。なお、売上原価は仕入の行で計算する。また、棚卸減耗損と商品評価損は商品ごとに計算し、独立の科目として処理する。

	帳簿棚卸数量	実地棚卸数量	帳簿価額	正味売却価額
A 商品	200個	197個	@¥100	@¥125
B 商品	175個	174個	@¥105	@¥100
C 商品	75個	75個	@¥125	@¥115

5. 売買目的有価証券の内訳は、次の通りである。決算にあたって、時価法を適用する。

	帳簿価額	数量	時価
A 株式	900円/株	100株	750円/株
B 株式	1,650円/株	50株	1,800円/株
C 株式	600円/株	75株	750円/株

6. 建物および備品に対して次の要領で減価償却を行う。なお、期中に増減したものについては、月割計算で減価償却費を計上する。

建物： 定額法（耐用年数は 10年、残存価額はゼロ）により計算する。

備品： 定率法（償却率は 20%）により計算する。
7. 社債は平成×3年1月1日に、償還期限 7年、年利率 3%（利払日は6月末と12月末）、額面 100円につき 96.5円で発行したものである。期末評価は、償却原価法（定額法）により行う。また、社債利息の当期の未払分を計上すること。
8. 当期に取得した固定資産の火災保険料について、前払分が 1,200円ある。
9. 前受金 15,000円は、予約販売にあたって商品代金の総額を予約金として受け取っていたものであるが、決算日までに商品の引渡しはすでに完了していたが、未処理となっていた。
10. 支払利息は借入金の利息であるが、当期分の未計上額が 350円ある。
11. 手数料の未収額が 3,000円ある。

精 算 表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	209,000							
当座預金	200,000							
受取手形	35,000							
売掛金	117,000							
売買目的有価証券	217,500							
繰越商品	41,000							
建物	1,250,000							
備品	500,000							
建設仮勘定	250,000							
買掛金		98,500						
前受金		15,000						
借入金		100,000						
社債		495,625						
貸倒引当金		1,850						
建物減価償却累計額		300,000						
備品減価償却累計額		225,000						
資本金		1,000,000						
利益準備金		41,000						
繰越利益剰余金		224,725						
売上		1,604,000						
受取手数料		25,800						
仕入	963,000							
給料	300,000							
支払利息	4,000							
支払保険料	33,750							
社債利息	11,250							
	4,131,500	4,131,500						
貸倒引当金繰入								
有価証券評価益								
棚卸減耗損								
商品評価損								
未払金								
減価償却費								
固定資産売却益								
未払利息								
前払保険料								
未収手数料								
当期純利益								

1 (1)	(借方) 当座預金	12,000	(貸方) 受取手形	12,000
-------	-----------	--------	-----------	--------

(2) 未取付小切手については、会社処理のままで良い。→ 第9章 P 03

2 (1)	(借方) 備品減価償却累計額	78,750	(貸方) 備品	125,000
	現金	45,000	固定資産売却益	3,375
	減価償却費	4,625		

(2)	(借方) 建物	300,000	(貸方) 建設仮勘定	250,000
			未払金	50,000

3.	(借方) 貸倒引当金繰入	950	(貸方) 貸倒引当金	950
----	--------------	-----	------------	-----

$(35,000 - 12,000 + 117,000) \times 2\% - \text{前T/B } 1,850 = 950$

4.	(借方) 仕入	41,000	(貸方) 繰越商品	41,000
	繰越商品	47,750	仕入	47,750

	(借方) 棚卸減耗損	405	(貸方) 繰越商品	405
	商品評価損	1,620	繰越商品	1,620

帳簿 47,750円

@125	@105	@100	△ 870	△ 750	棚卸減耗費
@115	@100	@125			△ 300
					△ 105

197個 200個
174個 175個
75個 75個

5.	(借方) 売買目的有価証券	3,750	(貸方) 有価証券評価益	3,750
----	---------------	-------	--------------	-------

$(\text{時価@750} - \text{帳簿@900}) \times 100\text{株} + (\text{時価@1,800} - \text{帳簿@1,650}) \times 50\text{株} + (\text{時価@750} - \text{帳簿@600}) \times 75\text{株} = 3,750\text{円}$

6.	(借方) 減価償却費	137,500	(貸方) 建物減価償却累計額	137,500
	減価償却費	45,750	備品減価償却累計額	45,750

建物: $1,250,000 \div 10\text{年} + 300,000 \div 10\text{年} \times 5\text{ヶ月} / 12\text{ヶ月} = 137,500$
 備品: $\{ (500,000 - 125,000) - (225,000 - 78,750) \} \times 0.2 = 45,750$

7.	(借方) 社債利息	2,500	(貸方) 社債	2,500
----	-----------	-------	---------	-------

÷ 7年

1 → 500,000円

	(借方) 社債利息	3,750	(貸方) 未払利息	3,750
--	-----------	-------	-----------	-------

$500,000 \times 3\% \times 3\text{ヶ月} / 12\text{ヶ月} = 3,750$

8.	(借方) 前払保険料	1,200	(貸方) 支払保険料	1,200
----	------------	-------	------------	-------

9.	(借方) 前受金	15,000	(貸方) 売上	15,000
----	----------	--------	---------	--------

10.	(借方) 支払利息	350	(貸方) 未払利息	350
11.	(借方) 未収手数料	3,000	(貸方) 受取手数料	3,000

精 算 表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	209,000		45,000				254,000	
当座預金	200,000		12,000				212,000	
受取手形	35,000			12,000			23,000	
売掛金	117,000						117,000	
売買目的有価証券	217,500		3,750				221,250	
繰越商品	41,000		47,750	41,000			45,725	
				405				
				1,620				
建物	1,250,000		300,000				1,550,000	
備品	500,000			125,000			375,000	
建設仮勘定	250,000			250,000				
買掛金		98,500						98,500
前受金		15,000	15,000					
借入金		100,000						100,000
社債		495,625		2,500				498,125
貸倒引当金		1,850		950				2,800
建物減価償却累計額		300,000		137,500				437,500
備品減価償却累計額		225,000	78,750	45,750				192,000
資本金		1,000,000						1,000,000
利益準備金		41,000						41,000
繰越利益剰余金		224,725						224,725
売上		1,604,000		15,000		1,619,000		
受取手数料		25,800		3,000		28,800		
仕入	963,000		41,000	47,750	956,250			
給料	300,000				300,000			
支払利息	4,000		350		4,350			
支払保険料	33,750			1,200	32,550			
社債利息	11,250		6,250		17,500			
	4,131,500	4,131,500						
貸倒引当金繰入				950		950		
有価証券評価益				3,750		3,750		
棚卸減耗損				405		405		
商品評価損				1,620		1,620		
未払金				50,000				50,000
減価償却費				187,875		187,875		
固定資産売却益				3,375		3,375		
未払利息				4,100				4,100
前払保険料				1,200				1,200
未収手数料				3,000				3,000
当期純利益						153,425		153,425
				744,900	744,900	1,654,925	1,654,925	2,802,175
								2,802,175

Financial Accounting

Journalization Class 2

日商簿記2級

2014年8月29日 第1版 第1刷発行
2014年10月1日 第1版 第2刷発行

編著者・著作権者 F I N株式会社
〒650-0011
兵庫県神戸市中央区下山手通5-8-14-310
www.fin01.com
E-mail: fin0ldog@gmail.com
複製・頒布を禁じます。 ©FIN Corporation